
職業、ニート。

nao

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

職業、ニート。

【Nコード】

N7954K

【作者名】

nao

【あらすじ】

弱冠21歳にして7回も転職し結局ニートに舞い戻った作者naoこと工藤直人の生涯を綴ったダメ人間ストーリーです(@ | @ ;)

上京

2007年3月末日。私は両親に別れを告げ東京行きのバスに乗り込んだ。

私は青森県弘前市内の工業高校に通っていて、在学中に東京の「墨出し屋」なる会社に就職が内定していた。私は墨出しとは何なのか全くわからなかったが、担任の先生には

「働けばわかる」

と、説明にならない説明しかしてもらえなかった。

墨出しとは、建設現場で杭芯（基礎杭の中心）の位置を測量機械を使って出したり、間仕切りやその他位置出しをする、現場の寸法管理をする仕事である。（入社してから分かったのだが）

とにかく、私は訳の分からないまま東京へと向かった。

入社

無事東京に着いた。駅の改札では皆財布をかざしてスイスイと改札を通り抜けて行く。

「すげー。あれがSuicaかー」

皆無表情で通り過ぎて行く中、私は一人で感動していた。

集合時間の30分程前に会社に着いた。新入社員の待合室にはもう20人程の人が既に緊張した面持ちで椅子に座って待っていた。なんか大半の人がスーツだった。私は赤のジツパーにジーパンという完全普段着だったため、なんか浮いていた。

数分後、新入社員35人が勢揃いした。総務部長なる人が挨拶をし、各自に作業着、ヘルメット、安全靴、安全帯が支給された。その後社長が登場。よくわかんない挨拶を受け、その後総務部長が

「では新入社員の自己紹介に移りたいと思います」

と、自己紹介タイムに突入した。

「では一番前の北村さんからお願いします」

一番前の北村……ん？女！？35人の新入社員の中に唯一女がいた。

「佐賀県出身の北村です。よろしくお願いします。」

パチパチ・・・皆拍手。そして順番に自己紹介が進んでいった。当たり前だが、皆標準語で自己紹介をする。しかし、私にとっては大変なことなのだ。私は18年間、津軽弁バリバリの青森県弘前市で生まれ育ち、標準語のイントネーションというものが全くわからないのだから。土壇場で訛りを直すことなど出来るわけもなく、私の番になった。

「青森げんしゅっすんの工藤直人です。よろすぐお願いします」
・・・
3秒程間が空き、拍手。この間はなんだったんだろうか。

全員の自己紹介が終わり、1週間程の間の研修期間の間の部屋割が発表された。この研修期間は都内在住の人も含めて全員の寮に宿泊する。私は篠村という都内在住のチャラ男君と同じ部屋になった。

「俺、篠村。よろしく」篠村と挨拶を交わす。弘前で自分のことを「俺」なんていう人はいない。そんなやつは確実に馬鹿にされた。自分のことは「わぁ」「相手のことは「なぁ」なのだ。

「工藤すげー訛ってんね。青森だっけ？」

単刀直入にそう言われた。

「ああ、んだよ（そうだよ）。篠村はこっちの人なんだべ？」

「うん。青森とか超寒そうだよ。ひろまえて俺知ってるよ」

「ひろさきね」

「あーそうそう。ひろさき」

弘前の人の中で「ひろまえ」はタブーである。これを聞いて怒らない弘前市民はいない。こんな中身のない会話をしながら1日目は終了した。

研修

翌日から研修が始まった。最初の1、2日目くらいまでは座学だった（確か）。研修資料というテープを貼ったファイルが2部渡され、中には全く訳の分からない図面や単語がずっしり記載されていた。研修担当のおじさんがファイルを中身を読みながら講義を淡々と進めていく。4〜5人の新入社員はもう顔を伏せてすっかり睡眠を取っていた。おじさんはそれに気づいてないのか、そのまま講義を進める。私もあまりにも退屈で、フワフワし始めたその時、おじさんが自分と反対側で寝ていた新入社員の前にカツカツ歩み寄り、

「石山！やる気ないなら帰れ！あ！？なんならもう辞めるか！」

怒声が室内に響き渡った。石山君はビククリした様子で

「い、いえ」

と返事をした。

「いいか！お前等はもう社会人だ！まだ高校生気分なんじゃねえのか？お前等が今やってる研修にももう給料が発生してんだ！寝て給料貰う奴があるか！嫌なら今すぐ荷物まとめて帰れ！」

全員いろんな意味で目が覚めた。その後は、皆寝ることなく研修を受けた。

3日目から現場研修というものが始まった。現場研修とは埼玉の大宮に会社の研修所があり、そこで実際に現場で使う測量機械や墨出しのノウハウを教わるという研修であった。寮から電車で大宮に

移動。朝6時起き。私は学生時代いつも7時頃起きてたので大変だった。今考えると、どれだけ甘ちゃんな野郎なんだ……。

現場研修は結構楽しかった。この頃から同期の奴と話すようになった。

研修最終日。この日に都内在住の者は帰宅、違う場所の寮に決まった者は移動する。そして各自に配属された現場と交通アクセスが記された用紙を貰う。皆バラバラの現場だ。私は丸の内。7時30分に東京メトロ千代田線二重橋前、伊藤さん待ち合わせ。会社の最寄り駅の浮間舟渡からの乗り換え方とかが書いていた。6時に目覚ましをセットし、早めに寝た。

初仕事

初出勤の日。普通の人ならソワソワして予定より早く起きたりするものなんだろう。私は6時37分の埼京線に乗り、赤羽で京浜東北に乗り換え、西日暮里で千代田線に乗り換えるという、上京して1週間の田舎者には結構レベルの高い電車通勤であった。そんな不慣れで絶対戸惑うことがわかっていてその日。……………

7時5分。私は朝の気持ちの良い日差しに気づき目が覚めた。

「うわー！やべー！」

私は1分を着替え、安全靴、ヘルメット、安全带、作業着をカバンにグシャグシャに突っ込み、猛ダッシュで駅まで走った。まあ、間に合う訳ないのだが……

私は電車じゃ絶対間に合わないと思い、駅前にいたタクシーに乗り込んだ。

「丸の内の二重橋前まで。飛ばして下さい」

私は汗だくになりながらドラマでよく使われるセリフを吐いた。本当にバカである。運転手は「え？」みたいな表情をしながら発車した。ところが10分もしないうちに渋滞にハマった。

「7時半までに着きますか？」私は当時東京の地理など知らないから平気でこんなことを聞いた。

「いやー7時半は無理だよ。赤羽で降りて電車で行った方が早い

んじゃない？」

結局1000円かけて電車より遅く赤羽に着いて降りた。初日から最悪である。しかし当時の私はもうテンパりまくっていて、またダッシュで駅に向かい、京浜東北に乗った。なんとか西日暮里まで着いたものの、既に7時25分である。私はここで観念し、会社に電話を入れた。

「もしもし。工藤です。乗り換え間違えて、今西日暮里なんですけど、どうすればいいですか？」

私は嘘をついた。しかし

「あー？お前ついさつき会社の前走っていったろ？寝坊したんだろ？初日から何やってんだよ！」

バレバレだった。

「すいません。寝坊しました。」

「……。とりあえず待ち合わせ場所に向かえ！いいか、伊藤さんにあつたらまず謝れよ。分かったか！」

「はい……」

8時頃、到着した。10分後、作業着を着たおじさんが近づいてきた。

「工藤くん？」

「はい。遅刻してすいませんでした。」

「まあ最初は仕方ないよね。んじゃ現場行くか。」

優しい感じの人だった。とりあえず少し緊張が解れた。私は現場に入った。作業着に着替え、新規入場教育というものを行い、ヘルメットにシールを貼った。

私の初仕事はスタッフ持ちだった。スタッフというのは5ミリ単位で刻みが入ってる標尺である。それをレベルという高低差を測る機械で覗いて寸法を読む。初日は結構楽であった。

こうやって振り返ってみると、私がなんでダメなのかが浮かび上がってくる。今でも仕事に行く時は時間ギリギリだし、都合が悪くなると平気で嘘をつく性格は治っていない。直さないとダメだなあ。。。

続く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7954k/>

職業、ニート。

2010年10月15日23時51分発行